

新たな出発 歴史を知り、未来を創る

篠山市立八上小学校長
森田 恭弘

11月23日(土)、午前中の学習発表会に引き続き、午後に記念式典を開催しました。酒井市長、前川教育長、歴代の校長先生をはじめ、多くの地域・保護者の方々にご出席いただいたことは何よりの喜びです。オープニングでは、6年生が鎧や袴を身につけ、口上を堂々と述べました。「歴史のリレー」では、3名の卒業生の方に小学校時代の思い出や児童に期待することを熱く語っていただきました。児童119名がお祝いの言葉を大きな声で呼びかけました。最後には、長く親しまれている我が校歌を参加者全員で斉唱しました。改めて、歴史の重さ、木造校舎への愛着、地域の期待を強く感じ、身が引き締まる思いがします。



「歴史のリレー」(卒業生)

八上小学校は、地域・卒業生・保護者・児童・教職員が一体となり、その時代の先端を行く教育活動を創り上げてきました。これは八上の大きな財産です。私たちは、140年の歴史から学び、我が郷土八上の明るい未来を創るために「新たな出発」をいたします。これからも温かいご理解とご支援のほどをお願いいたします。

台風18号八上校区を襲う

編集委員

平成25年9月15日から16日、日本列島を縦断した台風18号は、近畿地方などに甚大な被害をもたらしました。

丹波地域は、強い風と大雨が降り、後川地区では16日正午までの24時間降水量が240・5mmと観測史上最高を記録しました。八上地区では糯ヶ坪・京町集落に被害がありました。特に糯ヶ坪・京口団地付近は、15日の夜半から16日未明にかけて、篠山川の水位が上昇したため、団地付近の水路の水(内水)は、篠山川へ排出できず、人の腰にまで達する勢いとなり、消防団第7分団団員ほかによる懸命な排水作業が行われました。被害の状況は、床上浸水15棟19世帯、床下浸水4棟5世帯、自主避難1世帯4名(高城会館に避難)を数え、家具、畳、家電製品の廃棄処分及び乗用車の浸水等々あり、経済的にも多大な被害が生じました。

今回の水害について、県・市・自治会と被災された住民・消防・水利組合等の関係者により、被害状況・被災原因、被災された住民への対応・支援体制等を検証し、対策を講じる、二度と水害の起きないまちづくりに取り組む運動が展開されています。



糯ヶ坪・京口団地付近

八上小学校の歩んだ道

八上小学校同窓会

新年祝賀式

『沿革史』によると、明治39年1月1日、天皇・皇后に喜びを申し上げる新年祝賀式が挙行されました。式典は「拝賀式」「四方拝賀式」「新年遥拝式」「年賀式」「新年式」「新年祝賀式」等と名称を替え、昭和44年まで続けました。戦後生まれの筆者は、元日の朝、講堂での祝賀式に出て、お正月の歌を歌い、紅白の饅頭を戴いて帰ったことを思い出します。

児童数の変遷

最近小学校の閉校や統廃合が話題となつていきます。八上小学校の児童数はどのように変化したのか、『沿革史』を開いてみました。

明治6年4月、八上小学校創立後、児童数は、明治24年度から尋常科(小学校)、高等科に分け、記録されています。ここでは小学校の児童数、男子・女子数を表と、児童数の変遷グラフによって、表わし、記述しました。グラフは、北アルプスの山並みを見るような形をしています。中央の高峰群と左右の山塊群です。左から「明治山塊群」、「大正・昭和高峰群」、「昭和・平成山塊群」と名付けますと、「明治山塊群」は、明治24年度、206名の児童数は、翌年度には150代に下がり、180代まで上下しながら、明治35年度には、212名、明治40年度203名です。

次に、「大正・昭和高峰群」は、明治41年度児童は271名、4つのピークは、明治43年度318名、昭和8年度333名、昭和20年度356名、昭和34年度334名の児童数です。そして、昭和50年度162名を谷として、次の山塊に移ります。

この時代は、第1・2次世界大戦の中、「生めよ増やせよ」政策のもと、急激に児童数は増え、さらに昭和18年度から23年度には疎開児童により最高の児童数を記録します。その後

児童数は減少していききました。しかし、平和の訪れは、昭和22年以降空前のベビーブームを起し、昭和34年度をピークに、学校を卒業していきます。

そして、この高峰群を形作った年平均300名前後の児童は、成長すると戦争と向き合い、戦後は高度経済成長を担うべく、篠山から都市部へ流出し、都会の人となりました。昭和・平成山塊群の児童数は、昭和51年度から上昇し、昭和55年度209名、58年度208名、谷底の平成元年度185名、再び上り平成7年度215名をピークとして急激に、緩やかに裾野へと向かいます。2つのピークは、第2次ベビーブームによる出生率の増加と、阪神・淡路大震災による避難児童の増加を表しています。



西暦	年度	男	女	計
1891	明治24年度	112	94	206
1900	明治33年度	96	82	178
1910	明治43年度	160	158	318
1920	大正9年度	138	159	295
1930	昭和5年度	154	154	308
1940	昭和15年度	143	126	269
1950	昭和25年度	155	144	299
1960	昭和35年度	165	141	306
1970	昭和45年度	110	83	193
1980	昭和55年度	90	111	209
1990	平成2年度	91	85	177
2000	平成12年度	85	80	171
2010	平成22年度	71	59	130
2013	平成25年度	67	52	119

第3回 親子の考古学体験学習 「土器を作ろう」 (土器づくり・土器焼き)

地域おこし部会 池田正男

平成23年度より、親子の考古学体験学習を実施しています。昨年の火おこしに続き、今年も、親子の二世代が、「土器を作ろう」という擬似体験を通して、古代の人の技術に学び、親子のふれあいを図ろうと計画しました。

6月15日(日)、午前中より高城会館において、親子ほか20名の参加により、県立考古博物館でボランティアをされている「考古学者(がくしゃ)」の先生の指導を受け、粘土をこねて、縄文土器や弥生土器を作りました。



作品展示(八上小学校140周年記念式典)

夏の期間、作品を乾燥させ、10月14日(祝日)、殿町の自治会長坂本雅美さんの田において、親子10数名が、土器焼き(野焼き)用のカマドを、わら・木、粘土(田の土)により築き、その中に作品を入れ、そして火をつけ、一昼夜かけて焼きまし

イベント情報

1月以降予定されているイベントについてお知らせします。

◎1月19日(日) 13:30~15:00
八上校区人権・同和教育研究大会 (於) 高城会館

◎1月26日(日) 13:30~
第7回「八上城ふるさとガイド養成講座」 (於) 高城会館

◎2月23日(日) 13:30~
第7回八上ふるさと塾 山口喜昭「写真で見る篠山の今昔」 (於) 高城会館

◎3月9日(日) 13:30~
第8回八上ふるさと塾 藤田 淳「丹波の旧石器人(仮題)」 (於) 高城会館

◎2月16日(日) 13:30~
「知って得する介護保険講座」 (於) 高城会館

編集後記



12月15日(日) (高城会館) しめ縄づくりの三世代

●「八上まち協活動に係るアンケート」の概報によりますと、広報誌「やかみ高城」は多くの方に読まれていることがわかりました。「少し堅苦しい」という声も多々あり、編集担当者も頭を悩ませています。● 広報誌への掲載記事等をお寄せください。その他ご意見・ご提案もお待ちしております。● バックナンバー(残部) あります。メールアドレス (yakami-machiko@gaia.eonet.ne.jp) ホームページ (URL) (http://www.yakami-takashiro.jp) 八上校区まちづくり協議会 千六六九・二四三七 篠山市糯ヶ坪甲八十三番地一